



令和4年度 大阪しあわせネットワーク 事業報告書

1. 令和4年度の概要

大阪府社会福祉協議会ならびに社会福祉施設経営者部会・各施設種別部会では、昨今の社会経済情勢の変化等により顕在化してきた“制度の狭間”の課題への対応や、改めて問われている社会福祉法人のあり方をめぐる議論に“社会福祉法人の使命”として応えるため、これまで大阪で取り組まれてきた実践をさらに発展し、社会福祉法人の強みを活かしたさまざまな地域貢献事業を「大阪しあわせネットワーク（オール大阪の社会福祉法人による社会貢献事業）」として、平成27年度から推進している。

令和4年度も、新型コロナウイルス感染症の影響により、解雇や倒産による失業や収入減などの生活困窮やDV、虐待、孤立といった課題が多様な世代で浮き彫りとなり、引き続き感染予防に努めながら迅速かつ適切な相談支援とネットワークを活かした取り組みを推進してきた。また、令和3年度に引き続き、府域の大阪しあわせネットワークと地域貢献委員会などの市区町村域の実践を重層的包括的に推進していくことを目的に、9市町でモデル指定し、セミナー開催により実践を広く周知するとともに、市区町村域での基幹的役割を担う人材や施設間の連携強化をめざして、新たにCSWマイスター等連絡会を実施。あわせて、社会福祉法人の地域貢献実践を“見える化”するため、支援システムをリニューアルするなど、下記の事業を展開した。

2. 各事業の実績

(1) 総合生活相談事業（生活困窮者レスキュー事業）

失業、介護、障がい、虐待やDVなどにより、今日・明日食べるものがない、電気・ガスが止まってしまった…など制度の狭間の生活困窮に陥った方など、様々な“生活SOS”に対応する総合生活相談事業「生活困窮者レスキュー事業」について、すべての施設種別のコミュニティソーシャルワーカーによる支援を展開している。

令和4年度の相談支援件数は、新規相談1,535件、継続相談1,052件、合計2,587件（社会貢献支援員が支援に関わった事例のみ）で、相談支援事例のうち、「経済的援助（現物給付）」による支援を行ったものは、558件48,049,161円（再支援ケース19件813,606円を含む）であった。

①相談支援件数 ※下記件数は社会貢献支援員の関わった事例のみの集計

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規	106	107	110	161	138	140	135	131	113	148	108	138	1535
継続	64	56	76	92	97	95	101	108	98	91	86	88	1052
計	170	163	186	253	235	235	236	239	211	239	194	226	2587

②「経済的援助（現物給付）」を行った支援件数と金額

月	件数（件）	金額（円）	月	件数（件）	金額（円）
4	34	2,669,211	10	39	3,584,279
5	41	4,182,542	11	47	3,989,854
6	45	3,715,641	12	44	3,670,607
7	48	4,037,840	1	38	3,101,434
8	57	4,954,793	2	37	2,871,359
9	55	5,172,701	3	73	6,098,900
			計	558	48,049,161

【参考】令和3年度 527件 41,515,843円

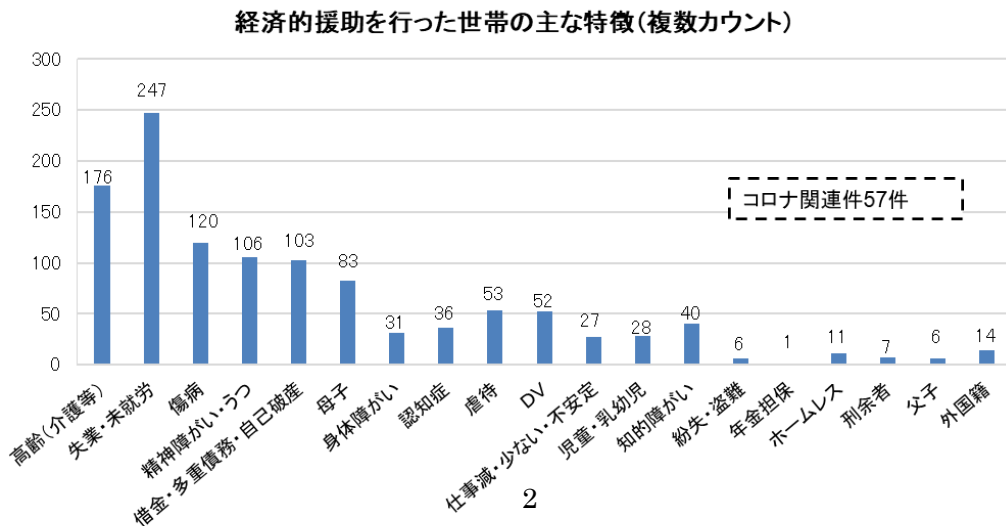
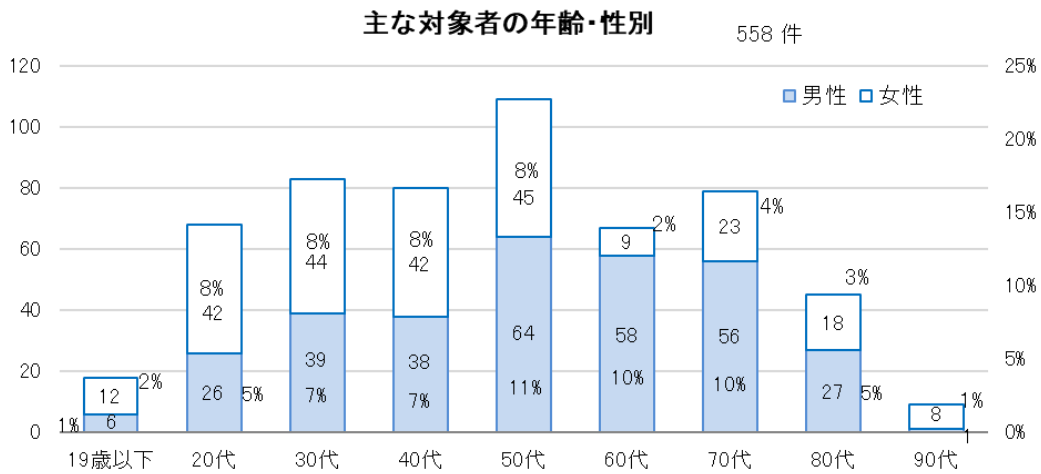
※上記の件数・金額には、再支援ケース19件813,606円を含む

※10万円を超える支援を行った件数は67件。（再支援で10万円を超えた件数含む）

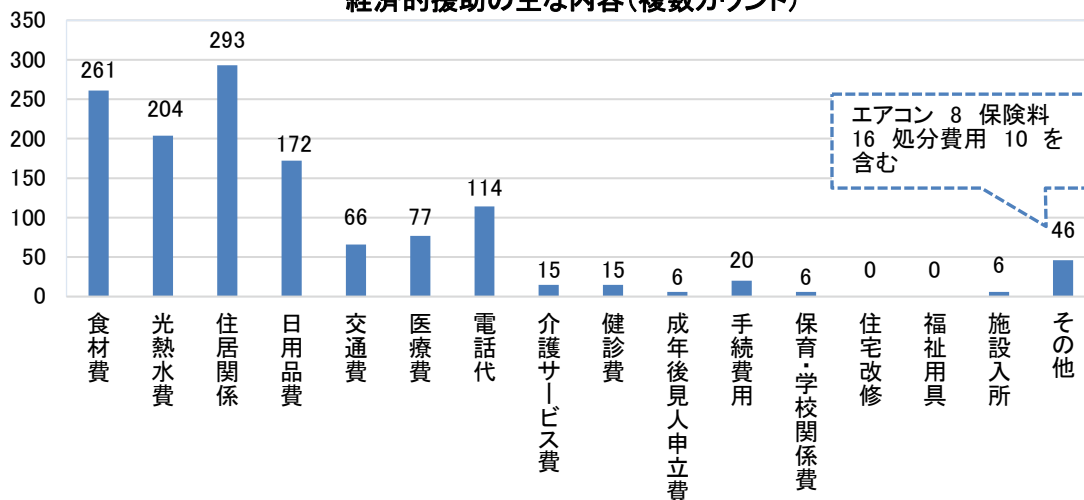
※施設からの残額返金が217件7,874,453円、対象者からの返還が36件786,847円あり、決算における経済的援助金額はこれらを差し引いた39,387,861円となる。

③「経済的援助（現物給付）」を行った相談支援事例の特徴と傾向

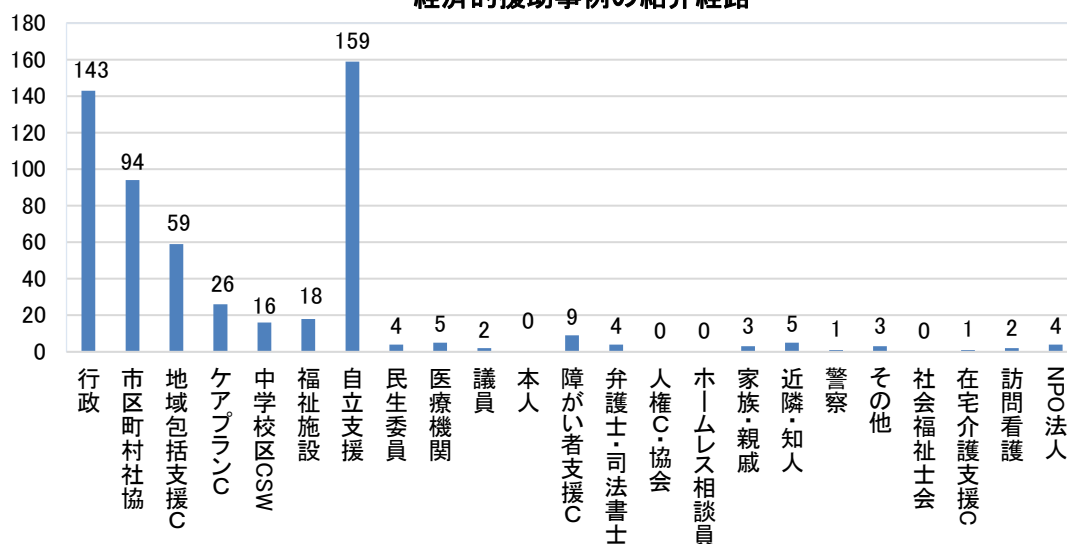
「経済的援助（現物給付）」による支援を行った世帯の主な対象者の年齢は、20～80代と幅広い年齢層となったが、10代への支援件数も増加傾向にあった。世帯の特徴は、「失業・未就労（247件）」が最も多く、相談の紹介経路は「自立支援（159件）」が最も多い。



経済的援助の主な内容(複数カウント)



経済的援助事例の紹介経路



《新型コロナウイルス感染症の影響に伴う総合生活相談事業の推進》

コロナ禍以降は、特例貸付や自立支援金など新型コロナウイルス対策関連制度の利用や、地域のフードパントリーとの連携など、経済的援助によらない支援も多くみられたが、それらの利用による解決が難しい相談が本事業につながってきた。

令和4年度は経済的援助を行ったもののうちコロナ関連の相談は全体の10%程度と、過去2年間と比較すると減少している。一方で、主な世帯の特徴では「失業・未就労」が最も多く、コロナをきっかけとした就業時間や雇用機会の減少が社会全体に及ぼす影響も残っており、結果として生活困窮状態から抜け出せないなど、支援を必要とする世帯の相談は今後も多いと考えられる。

《経済的援助(基金申請)事由による分析》

総合生活相談にて経済的援助を実施した内容について、平成28年度～令和3年度の事例傾向分析を行い、報告書を発行。困窮状態にある対象者の家族類型、身体・生活状況、経済状況などの項目ごとに分類分けをすることで実態を把握し、相談支援を行ううえでの一助としている。

令和3年度の特徴：

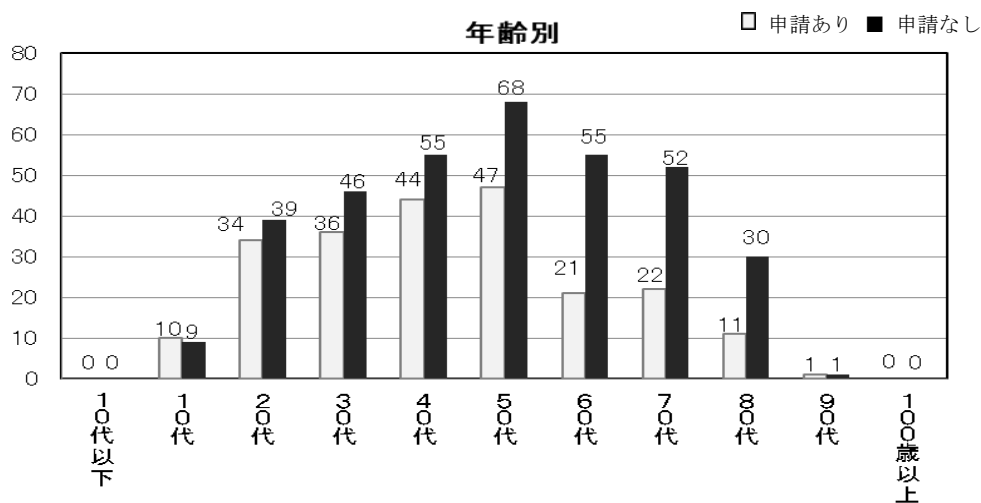
コロナ禍以後は、従来型の困窮原因に、コロナ禍が引き起こす困窮原因が加わり複雑化してきた。

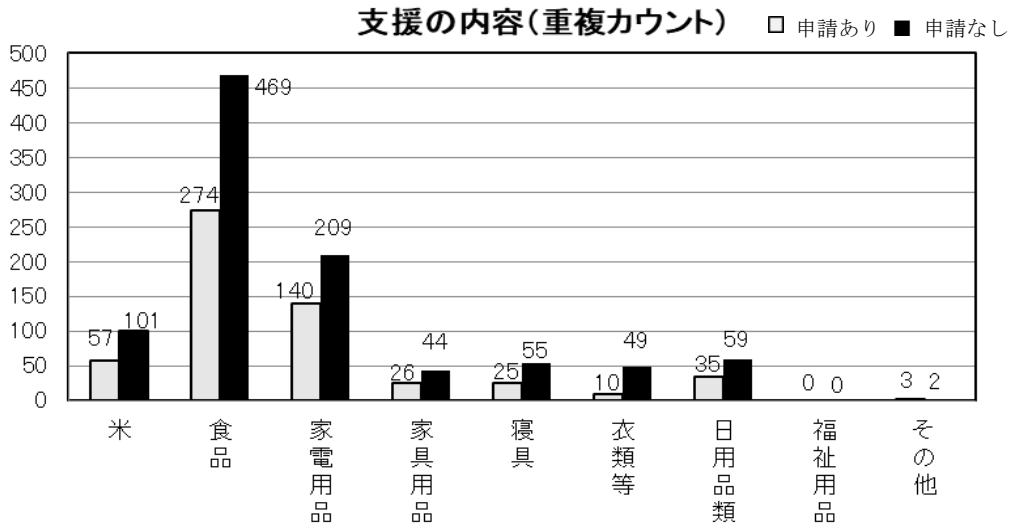
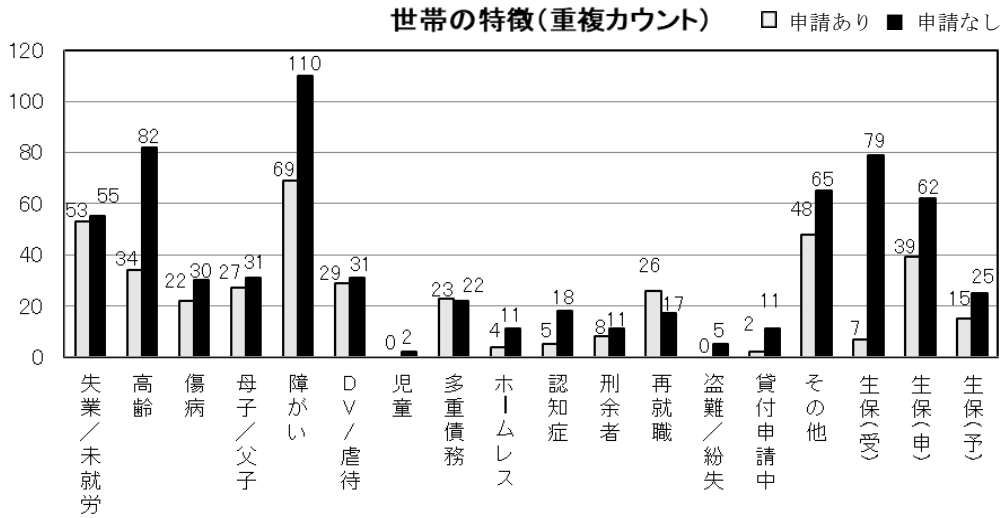
- 「家族類型」は「単身」の増加傾向が続き、令和3年度では6割を超えた。「高齢世帯」も令和2年度は減少したが、令和3年度は32.0%と令和1年度の水準に戻った。他の状況と併せてみると、高齢者を中心とした**従来型の困窮原因と、コロナ禍による失業などが引き起こす困窮原因の二つの傾向が顕著になってきている。**
- 「経済状態」では「所持金不足」はやや減少したものの、「多重債務」と様々な滞納（「ライフライン滞納・ストップ」「家賃/マンション管理費滞納」「携帯料滞納」）が増加している。
- 「就業状態」では「失業」「コロナ関連」が多く、「住居関係」では「退居見込み」、「就学状況」では「修学費が払えない」が増加するなどコロナの影響が顕著である。
- 「家庭環境」では「要介護者」が大きく増え、「虐待」も増加した。孤立事象（「近親者・親類からの孤立・拒絶」「家族の死去」「近親者・親類がいない」）も多い。（令和4年度版分析報告書より抜粋）

④寄贈物品・寄贈食材等による支援を行った相談支援事例の特徴と傾向

社会貢献基金を活用した「経済的援助（現物給付）」による支援だけでなく、地域住民や企業、関係団体等から寄付・提供いただいたリユース可能な家電や家具、日用品、食品（米、レトルト食品や缶詰、麺類など）も緊急的な支援が必要な際に活用している。

令和4年度は、寄贈物品・寄贈食材等による支援を、581世帯（905人）に行った。支援を行った世帯のうち、経済的援助（現物給付）による支援もあわせて行ったものは39%（226世帯354人）、経済的援助（現物給付）による支援を行わず、寄贈物品・寄贈食材等による支援のみを行ったものは61%（355世帯551人）であった。





(2) 社会福祉法人の強みを活かしたさまざまな地域貢献事業の推進

社会福祉法人(施設)で取り組まれている、それぞれの特徴や強みを活かしたさまざまな地域貢献事業を推進するとともに、本会機関誌や市民向けセミナーを開催し、各施設の実践の“見える化”をはかって、広く情報を発信している。

① ふくしおおさか連載記事「頑張っています！社会福祉法人の地域貢献」

No.	発行月	内容
1	春号 (4月)	市域のネットワーク構築と小学校との連携事例 福) 女子慈教寮 児童養護施設女子慈教寮 (児童)
2	夏号 (7月)	施設の地域貢献と地域貢献委員会を通じた連携と協働 福) 賀光寮 救護施設賀光寮 (成人)
3	秋号 (11月)	地域の住民や企業とのつながりをつくる食堂の実践 福) 亀望会 特別養護老人ホーム江之子島コスモス苑 (老人)
4	新春号 (1月)	施設の地域貢献を通じた住民・学校への障がい理解の推進 福) いぶき福祉会 貝塚いぶき作業所 (成人)

② 大阪しあわせネットワーク実践セミナー

「市区町村域しあわせネットワーク体制構築モデル事業実践報告会」

No.	日付	会場	人数	内容
1	04. 12. 09	オンライン開催	92	<講演> 「大阪における包括的支援体制の構築について」 日本福祉大学 社会福祉学部 川島 ゆり子 氏 <報告> 「堺市内での社会福祉法人等と社会福祉協議会の協働事業について」 ・福) 白水福祉会 三原台こども園 島名 かおり 氏 ・堺市社会福祉協議会 地域福祉課 増岡 智典 氏 「地域貢献委員会で取り組む熊取町のネットワーク構築について」 ・熊取町地域貢献委員会 委員長 石谷 拓郎 氏 (社会医療法人三和会 ライフケアながやま 介護サービス課課長) ・熊取町社会福祉協議会 池田 香奈 氏

(3) 「社会貢献基金（特別部会費）」の拠出

「大阪しあわせネットワーク」を推進するため、本会施設種別部会の会員施設（社会福祉法人が運営する施設のみ）が拠出する「社会貢献基金（特別部会費）」は、1,107 施設 73.7%（社会福祉法人が運営する会員施設 1,502 施設中）から 139,732,500 円の拠出があった。

<社会貢献基金の拠出状況（参考）>

【3年度】 1,500 施設中、1,108 施設（73.9%） 138,983,500 円

【2年度】 1,488 施設中、1,119 施設（75.2%） 138,471,500 円

3. 委員会

(1) 社会貢献基金運営委員会

事業全般に関する審議、「社会貢献基金」の適正な管理のため、学識経験者、民間団体、各施設種別部会から選出された委員により構成する委員会で審議を行った。

①委員会 2回

No.	日付	会場	人数	内容
1	04. 7. 13	OMMビル	17	1. 社会貢献基金の執行状況について ① 令和2年度大阪しあわせネットワーク地域貢献委員会連携推進助成事業繰越金の執行結果について ② 令和3年事業報告・決算について ③ 令和4年度事業進捗について 2. 市区町村域しあわせネットワーク体制構築モデル事業について
2	05. 2. 8	たかつガーデン	16	1. 社会貢献基金の執行状況について ① 令和4年事業進捗・補正予算について ② 市区町村域しあわせネットワーク体制構築モデル事業について 2. 令和5年事業計画・予算について

②中間報告 1回

No.	日付	会場	人数	内容
1	04. 12. 28	中間報告 (書面)	—	1. 令和4年度業進捗状況について 2. 市区町村域しあわせネットワーク体制構築モデル事業の進捗について

4. 社会貢献支援員の配置

(1) 社会貢献支援員の配置状況 (令和5年3月末日時点)

No	担当地域	氏名	駐在先 (法人名/施設・事業所)
1	吹田市・豊中市・能勢町・豊能町・茨木市	國森 絵美	吹田市社会福祉協議会施設連絡会 (事務局:吹田市社会福祉協議会)
2	池田市・箕面市・高槻市 島本町・摂津市 (北ブロック担当)	上杉 憲司	(福) みどりヶ丘会 グリーン特別養護老人ホーム
3	寝屋川市・門真市・枚方市・交野市	松本 保彦	(福) 聖徳園 特別養護老人ホームひらかた聖徳園
4	四條畷市・大東市・守口市	北村 優子	(福) 大阪府社会福祉事業団 特別養護老人ホーム四條畷荘
5	東大阪市	湯村 丈司	(福) 由寿会 特別養護老人ホームアーバンケア稲田
6	八尾市・柏原市・松原市・藤井寺市・羽曳野市	下永田 智子	柏原市民間社会福祉施設連絡会 (事務局:柏原市社会福祉協議会)
7	河内長野市・大阪狭山市・富田林市・太子町・河南町・千早赤阪村	大倉 修一	河内長野市社会福祉施設連絡会 (事務局:河内長野市社会福祉協議会)
8	大阪市(淀川区・西淀川区・北区・福島区・此花区・西区)	井田 堤子	(福) 亀望会 特別養護老人ホーム江之子島コスモス苑
9	大阪市(天王寺区・東成区・生野区・西成区)	川崎 博之	(福) 久栄会 特別養護老人ホームインパレスみのり苑
10	大阪市(鶴見区・城東区・都島区・旭区・東淀川区)	堀井 義元	(福) 治栄会 軽費老人ホーム ラフォーレからまつ
11	大阪市(港区・大正区・浪速区・中央区)	築田 祐希	(福) みなと寮 救護施設 こうせいみなと
12	大阪市(平野区・住吉区・住之江区・東住吉区・阿倍野区)(大阪市ブロック担当)	上村 英	(福) 央福祉会 特別養護老人ホームウェルネスあびこ (福) みおつくし福祉会 母子生活支援施設 南さくら園
13	堺市	三井 環	(福) 白水福祉会 子育てひろば みはら
14	泉州(泉大津市・高石市・和泉市)(南ブロック担当)	末包 ミカ	(福) 豊中福祉会 特別養護老人ホームローズガーデン南苑

No	担当地域	氏名	駐在先（法人名/施設・事業所）
15	泉州（岸和田市・貝塚市・熊取町・忠岡町）	栗坂 英子	（福）嘉舟会 特別養護老人ホームいなば荘
16	泉州（泉佐野市・泉南市・阪南市・田尻町・岬町）	岸上 由美子	（福）幸楽会 すえひろこども園
17	府内全域	佃 今日子	本部（大阪府社協社会貢献推進室）

（２）社会貢献支援員全体会議

No.	日付	会場	内容
1	04. 4. 1	大阪社会福祉指導センター	令和４年度事業計画について エリア会議・情報共有
2	04. 5. 6	大阪社会福祉指導センター	エリア会議・情報共有
3	04. 6. 3	大阪社会福祉指導センター	エリア会議・情報共有
4	04. 7. 1	大阪社会福祉指導センター	エリア会議・情報共有
5	04. 9. 2	大阪社会福祉指導センター	エリア会議・情報共有
6	04. 10. 7	大阪社会福祉指導センター	老人施設部会 社会貢献事業推進委員会との意見交換 エリア会議・情報共有
7	04. 11. 4	大阪社会福祉指導センター	エリア会議・情報共有
8	04. 12. 2	大阪社会福祉指導センター	エリア会議・情報共有
9	05. 1. 6	大阪府社会福祉会館	エリア会議・情報共有
10	05. 2. 3	大阪社会福祉指導センター	研修（交通安全講習会）※生活困窮者支援グループと合同 エリア会議・情報共有
11	05. 3. 1	大阪社会福祉指導センター	エリア会議・情報共有

（３）社会貢献支援員に対する教育・研修

本会主催研修や行政・関係機関等が開催する研修会等への参加

社会貢献支援員のスキルアップをはかるため、本会主催研修や行政・関係機関等が開催する研修会・セミナー等に参加し、教育・研修の機会とした。

（４）社会貢献支援員による施設への訪問や、地域貢献委員会（施設連絡会）との連携支援

- ・新規参画施設への訪問件数：393 件
- ・施設の地域貢献や公益的取組み、その他社会資源と連携した件数：506 件
- ・地域貢献委員会（施設連絡会）やCSW 連絡会など会議や研修への参加や、地域貢献委員会等へ働きかけ等ネットワークづくりに参画した件数：678 件

5. 研修会・セミナーについて

(1) コミュニティソーシャルワーカー養成研修会（前期）

No.	日付	会場	人数	内容
1	04.07.05	あべの ハルカ ス	66	<p>① 今なぜ社会福祉法人に 地域貢献が求められているのか 社会福祉法人 八尾隣保館 理事長 荒井 恵一 (大阪府社会福祉協議会 社会貢献基金運営委員会委員)</p> <p>② 大阪府社協・各施設種別部会がすすめる 「大阪しあわせネットワーク」について 大阪府社協 社会貢献推進室</p> <p>③ 総合生活相談(生活困窮者レスキュー事業)の すすめ方と支援システムについて 大阪府社協 社会貢献推進室</p> <p>④ 社会福祉協議会の活動と 社協×施設の地域貢献について 大阪府社協 地域福祉部</p> <p>⑤ 生活困窮者自立支援制度について 大阪府社協 地域福祉部</p> <p>⑥ 生活福祉資金について 大阪府社協 生活支援部</p>
2	04.07.27	府立福 祉情報 コミュ ニケー ション センタ ー	61	<p>① 【実践報告】生活介護事業所の現状と地域貢献について 社会福祉法人 豊中太陽会 サンスマイル(セルフ部会) 施設長 橋本 光子 氏</p> <p>② 社会保障制度・生活保護～医療サービス～ 医療ソーシャルワーカー 奥村 晴彦 氏</p> <p>③ 相談支援において忘れてはいけない 尊厳と倫理、人権の視点 一般社団法人メンタルさぼーたーず Labo 代表理事 澤井 登志 氏</p>
3	04.08.08	あべの ハルカ ス	61	<p>コミュニティソーシャルワークについて (講義・事例報告・演習) 日本福祉大学 社会福祉学部 教授 川島 ゆり子 氏 社会福祉法人 恭生会 CSW 平田 啓介 氏</p>

(2) コミュニティソーシャルワーカー養成研修会（後期）

No.	日付	会場	人数	内容
1	04. 11. 24	オンライン開催	43	<p>① 今なぜ社会福祉法人に 地域貢献が求められているのか 社会福祉法人 八尾隣保館 理事長 荒井 恵一 (大阪府社会福祉協議会 社会貢献基金運営委員会委員)</p> <p>② 大阪府社協・各施設種別部会がすすめる 「大阪しあわせネットワーク」について 大阪府社協 社会貢献推進室</p> <p>③ 総合生活相談(生活困窮者レスキュー事業)の すすめ方と支援システムについて 大阪府社協 社会貢献推進室</p> <p>④ 社会福祉協議会の活動と 社協×施設の地域貢献について 大阪府社協 地域福祉部</p> <p>⑤ 生活困窮者自立支援制度について 大阪府社協 地域福祉部</p> <p>⑥ 生活福祉資金について 大阪府社協 生活支援部</p>
2	04. 12. 06	オンライン開催	42	<p>① 【実践報告】児童養護施設の現状と地域貢献について 社会福祉法人 生駒学院 生駒学園(児童施設部会) 施設長 竹田 功 氏</p> <p>② 社会保障制度・生活保護～医療サービス～ 医療ソーシャルワーカー 奥村 晴彦 氏</p> <p>③ 相談支援において忘れてはいけない 尊厳と倫理、人権の視点 一般社団法人メンタルさぼーたーず Labo 代表理事 澤井 登志 氏</p>
3	04. 12. 23	オンライン開催	40	<p>コミュニティソーシャルワークについて (講義・事例報告・演習) 日本福祉大学 社会福祉学部 教授 川島 ゆり子 氏 社会福祉法人 四天王寺福祉事業団 四天王寺悲田太子乃園(母子施設部会) CSW 田中 知子 氏</p>

【参考】 コミュニティソーシャルワーカー養成研修会修了者数（平成16～令和4年度）

合計 2,517人

(3) CSWマイスター研修会 ※大阪府知事認定研修会

No.	日付	会場	人数	内容
1	04.11.1	シティプラザ大阪	40	①大阪府の施策・制度説明(包括的支援体制の構築に向けた社会福祉法人等との協働について) 大阪府 地域福祉課 ②地域共生社会におけるコミュニティ ソーシャルワーカーの役割について ～重層的支援体制整備事業におけるCSWのかかわりについて～ (講義・事例報告・演習) 公益財団法人 テクノエイド協会 理事長 大橋 謙策 氏 ≪報告者≫ ・東大阪市 地域福祉課 ・東大阪市社会福祉協議会 課長代理 古川 咲子 氏
2	04.11.2	シティプラザ大阪	40	地域共生社会におけるコミュニティ ソーシャルワーカーの役割について ～新たなサービス開発について～ (講義・事例報告・演習) 公益財団法人 テクノエイド協会 理事長 大橋 謙策 氏 ≪報告者≫ 社会福祉法人 福生会 養護老人ホーム福生園 CSW 山田 展裕 氏

【参考】CSWマイスター研修会 修了者数(平成25～令和4年度) 合計 269人

(4) CSWマイスター現任研修会

No.	日付	会場	人数	内容
1	04.11.15	グランキューブ大阪	23	「おおさかの福祉」に学ぶ包括的支援体制と 社会福祉法人の取組みについて (講義・事例報告・情報交換) 福井県立大学 看護福祉学部 教授 奥西 栄介 氏 ≪報告者≫ 社会福祉法人 秀明会 特別養護老人ホーム あす～る吹田(老人施設部会) 法人本部 統括部長 吉久 正規氏 (吹田市社協施設連絡会 幹事) 社会福祉法人 聖徳園 特別養護老人ホーム ひらかた聖徳園(老人施設部会) 地域連携課 課長 野坂 崇将 氏 (CSWマイスター)

(5) CSW・スマイルサポーター事例報告会（相談援助技術研修会）

No.	日付	会場	人数	内容
1	04. 8. 9	大阪府社会福祉会館	38	「経済的搾取の防止のため、後見申立と 親子世帯の生活自立を協働支援した事例」 梅花女子大学 こども学科 教授 井元 真澄 氏 《報告者》 社会福祉法人 大阪暁明館 大阪暁明館病院（医療部会） CSW 北 裕充 氏
2	04. 9. 30	オンライン 開催	52	「ギャンブルにより生活が困窮した独居高齢者への支援」 大阪城南女子短期大学 現代生活学科 教授 前田 崇博 氏 《報告者》 社会福祉法人 幸福荘 軽費老人ホーム 幸福荘（老人施設部会） 副施設長 野内 裕三子 氏（CSW）
3	05. 1. 27	オンライン 開催	40	①「相談支援業務における SNS や ICT 活用上の留意点」 一般社団法人 関西 ICT 協会 ②「SNS 等をきっかけとして困窮し、総合相談につながった事例について」 神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 教授 西垣 千春 氏
4	05. 2. 14	オンライン 開催	38	「未成年の方に向けたスマイルサポーターの相談支援」 日本福祉大学 社会福祉学部 教授 川島 ゆり子 氏 《報告者》 社会福祉法人 みどり会 八田荘第二こども園（保育部会） 園長 浅尾 和範 氏

(6) 大阪しあわせネットワーク実践セミナー ※再掲 6 頁参照

6. 大阪しあわせネットワークの推進にかかる各種取り組み

(1) 「大阪しあわせネットワーク支援システム」の運用

事業に参画する社会福祉法人（福祉施設）間における情報共有や、相談支援実績や様々な地域貢献実践を集約する「大阪しあわせネットワーク支援システム（<https://osaka-soudan.jp/>）」を運用している。

また、コロナ禍においては集合研修の減少など会員施設への情報発信の機会も減少したことから、支援システムを通じコロナに関連した支援事例や、特徴的な支援事例についても定期的に発信している。



(令和4年度実績)

「10代の困窮する世帯への支援」「市区町村をこえた連携支援」等 96 事例（概要）を紹介

(2) 「大阪しあわせネットワークポータルサイト」の公開

「大阪しあわせネットワーク」による社会福祉法人の地域貢献実践を“見える化”するため、インターネットを通じた情報発信を行う「大阪しあわせネットワークポータルサイト (<https://www.osaka-shiawase.jp>)」を公開している。また、フェイスブックとも連携した情報発信を行っている。



- ① 地域貢献事業の登録施設 1436 事業 553 法人 (931 施設)
- ② CSW・スマイルサポーター登録施設 453 法人 (689 施設) ※令和5年4月現在

(3) ICT化の推進／相談支援アプリの開発・検討

①相談支援・記録の標準化、②業務の省力化、③データの蓄積と分析のしやすさなど、より良い事業の推進と事業全体の活性化をめざし、「大阪しあわせネットワーク支援システム」と連動し、タブレットやスマートフォン等の端末から相談支援記録を可能としたアプリケーションを開発。令和4年5月より運用開始。

また、会員施設への更なる活用と周知を目的とした、「アプリ版利用説明動画」を作成し、ポータルサイト等でも公開 (令和5年4月)。



- ①アプリ版を閲覧した「延べ人数」 448 ユーザー
- ②アプリを使い「入力等の作業された回数」 1614 回 ※令和5年4月現在

(4) ブロック担当 (社会貢献支援員) による地域支援

大阪府内にブロック担当4名を配置し地域支援を実施。圏域や施設種別を超えた相談支援体制づくりや広域連携を深める関係づくりをめざし、地域貢献委員会 (施設連絡会) との連携支援や、関係機関とのネットワークづくり、事業の啓発・広報などを行った。

また、大阪市ブロックにおいては、事業周知の一環として「ブロック NEWS」を年2回発行し、会員施設や地域貢献事業について、関係機関や会員施設等に紹介した。

7. 法人後見専門職員養成 (権利擁護推進室)

社会福祉法人の地域における公益的な取組として、法人後見専門職員の養成を開催。(年2回)

- ◎令和4年度 39名修了 ※令和3年度 56法人 78名修了
 - 第Ⅰ期 23法人 28名修了 (部会:老人13、成人3、セルフ4、児童1、経営協7)
 - 第Ⅱ期 11法人 11名修了 (部会:老人7、セルフ1、経営協3)
- ◎法人後見人としての活動状況 受任1件

8. 各施設種別部会との連携について

各施設種別部会における社会貢献・地域貢献の推進にかかる取り組みと連携し、大阪しあ

わせネットワークの推進をはかるため、部会、役員会における各種報告、研修会、各種事業における連携・協働を行った。

- ◎老人施設部会 ・ 常任委員会および各ブロック会議での状況報告
・ 社会貢献支援員との意見交換会
- ◎母子施設部会 ・ 社会貢献支援員との意見交換会

<各施設種別部会における社会貢献・地域貢献に関する主な取り組み>

- ◎経営者部会 ・ 地域貢献委員会代表者会議
地域貢献委員会の代表者と市町村社会福祉協議会事務局長等を対象に、大阪府社協、市町村社協連合会と共催で開催。
参加者：府内 33 市町、合計 60 名（施設 23 名、市町村社協 37 名）
- ◎老人施設部会 ・ 老人施設部会社会貢献事業 20 周年記念事業企画委員会
- ◎保育部会 ・ スマイルサポーター養成研修
・ スマイルサポーターフォローアップ研修

9. 「コミュニティソーシャルワーカー・スマイルサポーター連絡会」の開催支援

社会福祉法人のコミュニティソーシャルワーカーやスマイルサポーター等の情報交換・連携促進を目的として、府内各市区町村で「コミュニティソーシャルワーカー・スマイルサポーター連絡会」等下記のとおり開催した。また、コロナ禍で希薄となった専門職同士のネットワーク構築に向け、基幹的役割を担う CSW マイスター等を対象とした連絡会を開催。

<開催状況>

- ・大阪府内（政令市除く） 41 市町村中 11 市町村（書面開催 1、オンライン開催 3）
- ・大阪市内 24 区中 2 区（その他 CSW マイスター等連絡会を開催）
- ・堺市内 7 区中 7 区（オンライン併用 1）
（その他 7 区合同連絡会を開催）

10. 寄付の受け入れ 5回

No.	日付	寄付者	寄付内容
1	04.6.21	特定非営利活動法人 高齢者財産管理サポートまもるくん	100,000 円
2	04.11.10	特定非営利活動法人 高齢者財産管理サポートまもるくん	330,464 円
3	04.12.13	有限会社 ナカイ	商品券 10,000 円
4	05.1.24	宗教法人 四天王寺	白米 107 キロ、玄米 62.4 キロ
5	05.3.16	グリーン大阪農業協同組合	玄米 60 キロ

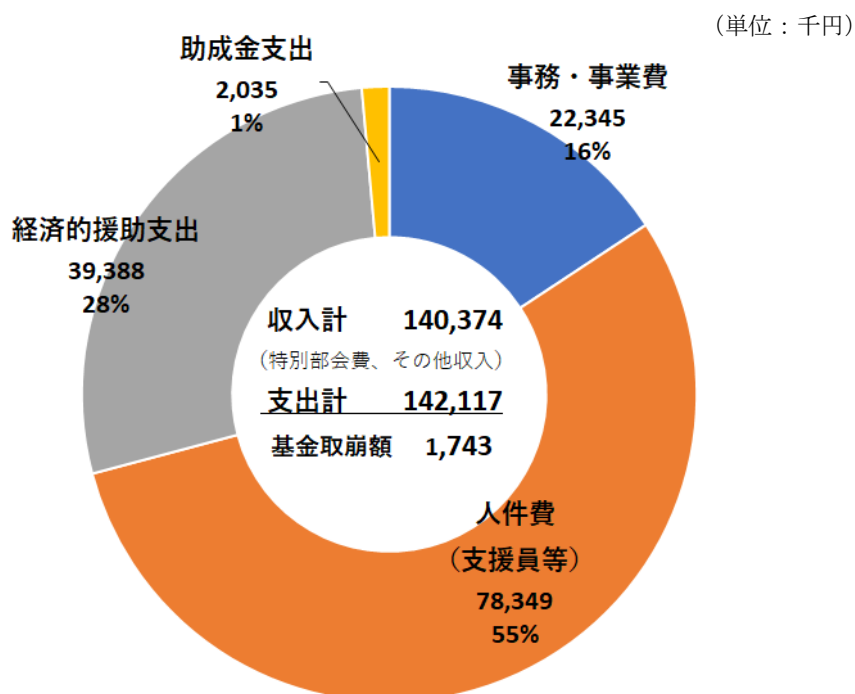
11. 大阪しあわせネットワーク「市区町村域しあわせネットワーク体制構築モデル事業」

令和 3~4 年度（2 カ年）で、地域共生社会の実現に向けた“総合的な相談支援のための体制づくりやネットワーク構築”を行うことを目的とした市区町村域の施設の種別を横断して取り組む先駆的・開発的な実践（地域貢献委員会（施設連絡会）等の実践）をモデル指定し、地域の福祉力やセーフティネットの充実を図る。

- ① 対象：市区町村単位で活動を展開する地域貢献委員会（施設連絡会）等
- ② 実施期間：令和3年4月1日～令和5年3月31日（2カ年）
- ③ モデル指定：堺市、吹田市、大東市、寝屋川市、八尾市、柏原市、河内長野市、藤井寺市、熊取町の9地域貢献委員会（施設連絡会）
- ④ 令和4年度助成決定額：9か所 合計2,250,000円

12. 令和4年度決算概要 ※令和5年4月28日時点の見込みに基づくもの

令和4年度における大阪しあわせネットワークにかかる財務については、大阪府社会福祉協議会にて処理を行い、令和5年6月開催予定の大阪府社会福祉協議会定時評議員会において議決を行う予定であるが、令和5年4月28日時点における決算見込みに基づく、決算概要については下記のとおりである。



※令和4年度当初の社会貢献基金額は306,891千円であり、上記の基金取崩額1,743千円を引いた305,148千円が令和4年度末時点における社会貢献基金額となる。

※経済的援助支出については、総支援件数558件48,049千円から、施設からの残額返金217件7,874千円、対象者からの返還金36件787千円を差し引いた39,388千円となる。

～ 本件に関するお問い合わせ ～
 社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
 施設福祉部 社会貢献推進室
 電話 (06) 6762-9488 FAX (06) 6762-9472